



令和5年8月31日

救急医療週間の実施について

— 9月9日は「救急の日」 —

救急医療週間は、救急医療と救急業務に対する都民の皆様の正しい理解と認識を深め、かつ、救急医療関係者の意識の高揚を図ることを目的に、毎年9月9日の救急の日を含む日曜日から土曜日までの1週間に行っています。

東京消防庁では本年も「救急の日」及び「救急医療週間」を中心に下記の推進事項のもとに普及活動を実施いたします。

1 救急の日及び救急医療週間

- (1) 救急の日……令和5年9月9日(土)
- (2) 救急医療週間…令和5年9月3日(日)から9月9日(土)まで

2 「第10回地域の応急手当普及功労賞」の決定について

最優秀賞(消防総監賞)3団体(資料1)

- 社会福祉法人 福栄会 (品川区・品川消防署管内)
- 公益財団法人 世田谷区スポーツ振興財団 (世田谷区・成城消防署管内)
- 株式会社 増淵商店 (板橋区・志村消防署管内)

3 救急医療週間中の各消防署の主な行事

当庁ホームページ、公式アプリ、SNS等で広報いたします。

また、各消防署の行事については、東京消防庁公式アプリでご確認ください。

※行事が中止又は延期となる場合があります。最新の情報は各消防署へお問い合わせください。

4 推進事項

各項目の詳細については東京消防庁ホームページからご確認ください。

(<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-kouhouka/houdou.html>)

(1) 救急車の適時・適切な利用の促進

令和4年中の救急出場件数は過去最多の約87万件でしたが、本年は厳しい暑さの影響もあり、前年を大きく上回るペースで出場件数が伸び続けています。

119番通報で救急要請を受けると、対応可能な最も近くの救急車が出場しますが、救急要請が増加して近くの救急車が全て出場してしまうと、到着までに時間がかかってしまいます。真に緊急を要する方の救命につながるために、救急車の適時・適切な利用を呼びかけています。(資料2)

(2) 東京消防庁救急相談センター及び東京版救急受診ガイドの周知及び利用促進

東京消防庁では、急な病気やけがで救急車を呼ぶか判断に迷った際に、電話で相談できる「東京消防庁救急相談センター（#7119）」と、症状の緊急度を自身で判断できる「東京版救急受診ガイド」により、都民の皆様に安心を提供しています。

東京消防庁救急相談センター（#7119）及び東京版救急受診ガイドの更なる利用促進に向けて、広報活動を推進していきます。（資料3）

(3) 応急手当の普及促進

バイスタンダー（そばに居合わせた人）の応急手当は、救命効果の向上に大きく関わっています。普段から応急手当の方法を覚えていただき、誰もが自信を持って応急手当を実施できるよう、更なる応急手当の普及促進を図ります。（資料4）

また、救命効果の向上を図るため、119番通報の受付対応と並行し、通報者に対する応急手当のアドバイス（口頭指導）を実施しています。（資料5）

問合せ先

東京消防庁（代）	電話 3212-2111
総合指令室管理係	内線 3746
救急医務課救急相談係	内線 4545～4546
救急指導課救急普及係	内線 4625～4626
広報課報道係	内線 2345～2350

資料1

「第10回地域の応急手当普及功労賞」の決定について

1 地域の応急手当普及功労賞について

この賞は、応急手当奨励事業所のうち、地域における応急救護体制づくりに主体的に取り組んでいる事業所等を各消防署から募集し、効果的かつ模範的な取組みを表彰するものです。

受賞団体の取組みは、奏功事例として広く紹介し、様々な事業所や団体で参考にさせていただいています。

2 最優秀賞(消防総監賞)受賞団体について

(1) 社会福祉法人 福栄会 (品川消防署管内)

最優秀賞受賞の理由

1. 本部のある特別養護老人ホーム1階の警備員が常駐するエントランスにAEDを設置し、昼夜を問わず24時間、近隣住民がこのAEDを使用できる環境を整備しています。
2. 近隣の4町会と災害時協定を締結し、町会及び消防団と毎年防災訓練を実施しています。
3. 法人管理の施設で開催した「福栄会まつり」において、応急救護訓練や防災関連の訓練を行い、東京消防庁救急相談センターや火災予防関連広報への積極的な協力をしています。

(2) 公益財団法人 世田谷区スポーツ振興財団 (成城消防署管内)

最優秀賞受賞の理由

1. 心肺蘇生法訓練用人形と訓練用AEDを本部(屋内プール事務室)で自主的に整備し、出勤時に胸骨圧迫の訓練を実施することで、積極的に技能維持を行っています。
2. 独自の「安全管理マニュアル」を作成し、毎年見直しを図りながら、傷病者対応フローにより組織的に職員のとるべき行動を明確かつ標準化しています。
3. 応急手当普及員を養成し、職員の普通救命講習を自主開催する予定です。

(3) 株式会社 増渕商店 (志村消防署管内)

最優秀賞受賞の理由

1. 廃棄物収集業務の車両(収集車)の一部にAEDと応急手当セットを積載し、「AED搭載車両」のステッカーを貼付しており、業務中に一般市民から救護を求められた際に活動できるよう、訓練を行っています。(運転手は全員普通救命講習を受講)
2. 「全国スマイル・プログラム協議会」の会長選出事業者として、救命講習の普及と廃棄物収集車両へのAED搭載を全国的に推進する事業に貢献しています。
3. 応急手当普及員を養成し、社員に対する普通救命講習を自主開催しています。

応急手当奨励制度について

● 応急手当奨励制度の目的

突然の病気やけがなどの救急事故現場に居合わせた人々(バイスタンダー)が、救急車到着までの間に応急手当を実施することは大変重要です。特に、さまざまな人が多く集まる事業所や商店街、町会等において、応急救護体制の構築が期待されています。

そこで東京消防庁では、救命効果を高めるための方策の一つとして、応急手当普及に対する認識を高めていただき、事業所や商店街、町会等が自ら応急救護体制づくりができるよう、救命講習に対する積極的な取り組みを奨励しています。

● 救命講習受講優良証

応急手当の普及に関し、下記の交付要件を満たしている事業所等に対して、消防署長が救命講習受講優良証、優良マークを交付します。

交付要件

- ① 事業所や商店街、地域等で、救命講習の普及を推進する人(応急手当普及員など)が養成され、救命講習の普及に活用されていること。
- ② 交付対象毎に、総数(従業員数等)の30%以上が、有効期限内にある救命講習修了者であること。

優良証交付事業所等の公表及び優良マークの交付



救命講習受講優良証



優良マーク

【優良マークの活用】

- ・掲示は事業所の任意とします。
- ・直径200mm以内の加工が可能です。
- ※形態や色の加工はできません。

【加工例】

名刺

株式会社消防観光



安心安全な事業所

営業部長 東消太郎

東京都千代田区大手町1-3-5

Tel.03-XXXX-5678

E-mail tosho@sho-bo-kannko



バッジ

令和5年8月1日現在、1,401の事業所等に対して交付しています。

主な事業所等は下表のとおりです。



事業所、駅舎、バス・タクシー会社、商店街、デパート、スーパーマーケット、町会・自治会、公衆浴場、旅館、ホテル、ガソリンスタンド、学校、幼稚園、保育園、劇場、映画館、スポーツ施設、遊園地、銀行、信用金庫、郵便局、区役所・市役所 など

応急手当奨励制度に関することや交付手続きなど、ご不明な点がございましたら東京消防庁管内の各消防署へお問合せください。

資料2

救急車の適時・適切な利用の促進

令和4年中の救急出場件数は過去最多の約87万件でしたが、本年は前年を大きく上回るペースで出場件数が伸び続けております。それに伴い、119番通報も増加しています。

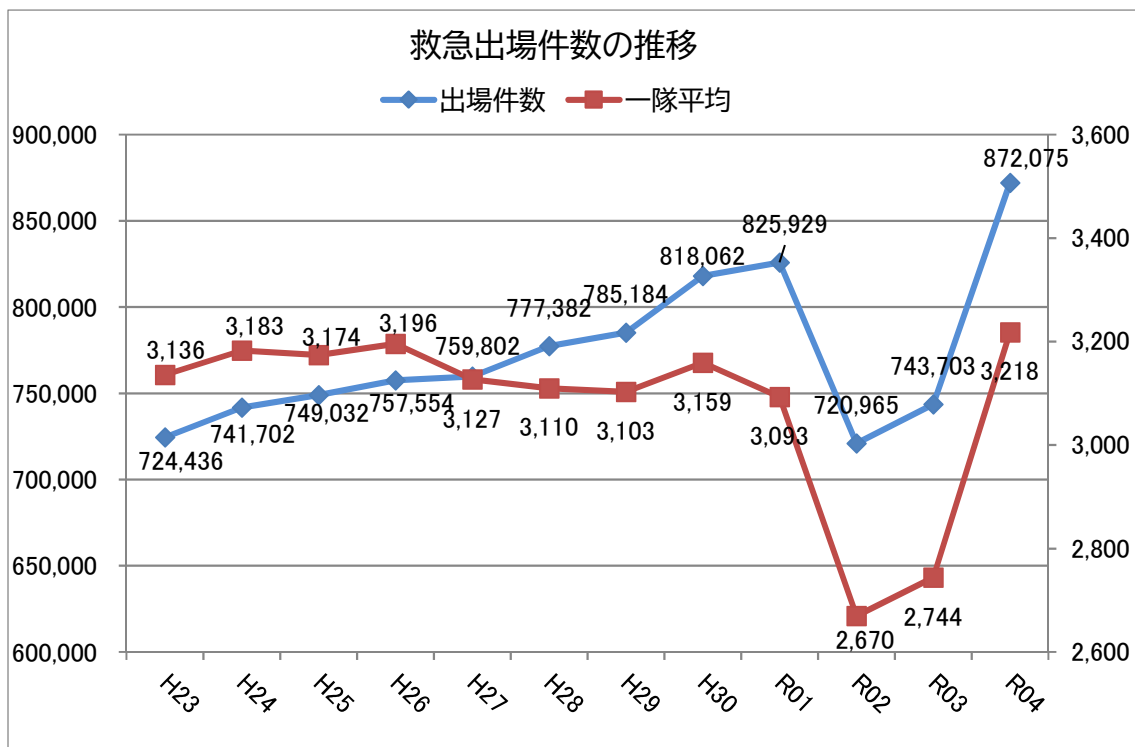
東京消防庁で実施した令和4年の消防に関する世論調査では、救急車を呼んだ理由として、「生命の危険があったと思った」など正しい理解があった反面、「どこの病院へ行っていいかわからなかった」「救急車でいくと優先的に診てもらえると思った」「交通手段がなかった」といった、緊急性のない理由も見受けられました。

救急車で搬送された方のうち、入院を必要としない軽症者の割合は50%以上を占めており（令和4年中は、53.4%）、この割合は、近年においてほぼ横ばいで推移しています。

東京消防庁では、119番通報で救急車の要請を受けると、対応可能な最も近くの救急車を出動させていますが、緊急性のない理由での救急要請が増えて近くの救急車が全て出動してしまうと、遠くの救急車が出動することになり、到着まで時間がかかってしまいます。

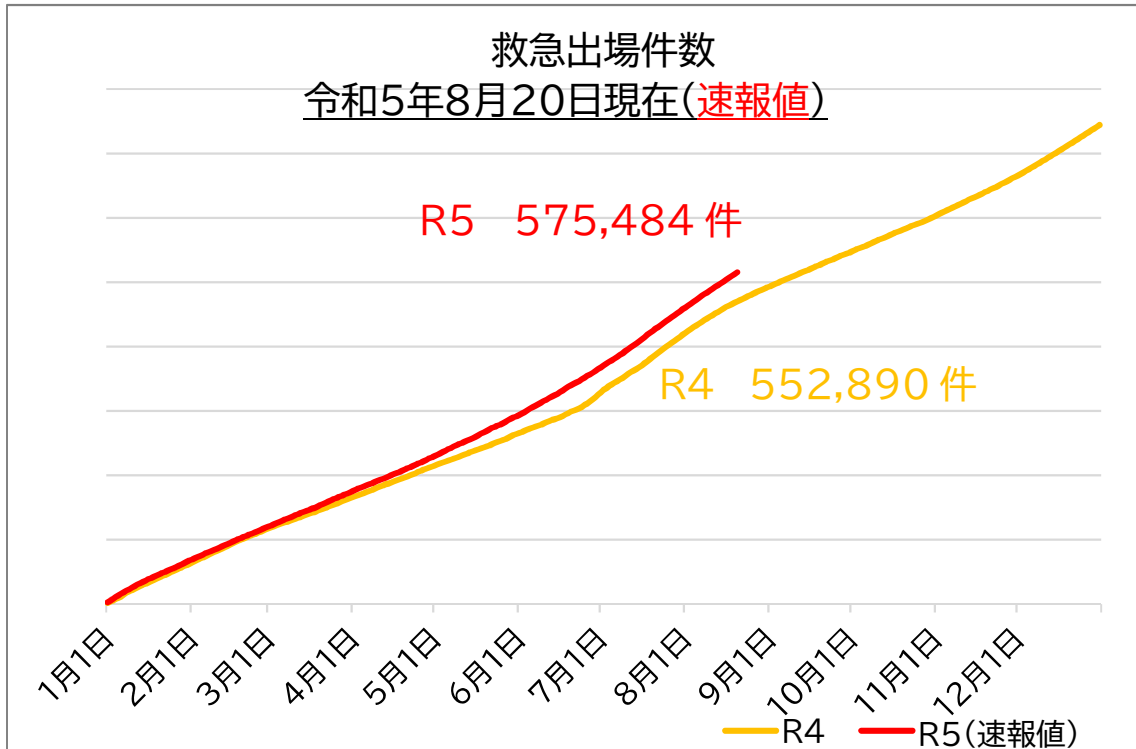
救急車の到着が遅れると、真に救急車を必要としている生命の危機が迫っている人を病院に搬送する時間が遅くなり、命が助かる可能性が低下してしまうため、真に救急車を必要とする方のために、救急車の適時・適切な利用を呼びかけていきます。あわせて119番通報の適正利用も呼びかけていきます。

救急出場件数の推移



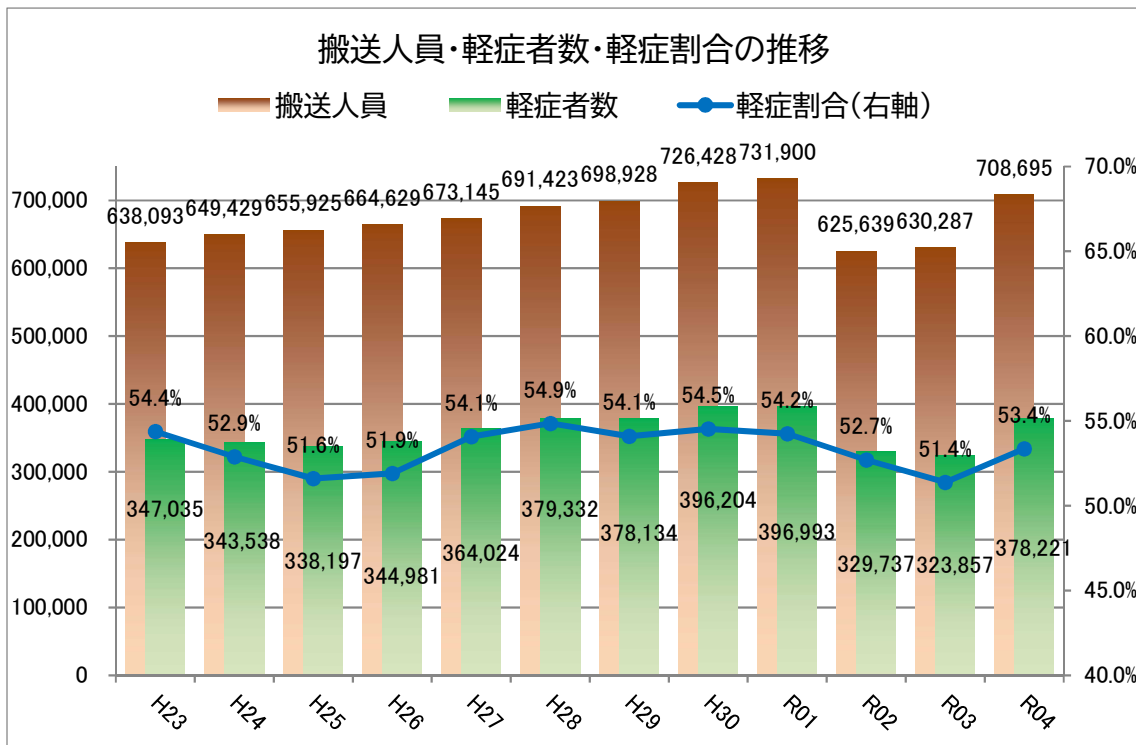
令和4年中の救急出動件数は、872,075件で過去最多を記録しました

救急出場件数(令和4年・令和5年比較)



昨年を上回るペースで救急出場が増加しています

搬送人員・軽症者数・軽症割合の推移



救急搬送人員に占める軽症者の割合は50%台で横ばいの状態です

東京消防庁救急相談センター及び 東京版救急受診ガイドの周知及び利用促進

「#7119」東京消防庁救急相談センター(以下「救急相談センター」という。)は、急な病気やけがで判断に迷った際の電話相談窓口として平成19年6月から運用を開始し、相談医療チーム(医師、看護師、救急隊経験者等)が、24時間・年中無休で対応しています。

令和4年は開設以来最多の約44万件の電話を受け、約26万件の救急相談^{※1}及び約18万件の医療機関案内^{※2}を行うなど、都民の皆様に安心を提供しています。

また、症状の緊急度を自身で判断できる東京版救急受診ガイド(以下「救急受診ガイド」という。)をウェブと冊子により提供しており、電話相談と併せて、都民の皆様に安心を提供するツールとしてご利用いただいております。

今後、救急相談センター及び救急受診ガイドの更なる利用促進を図るため、あらゆる機会を通じた広報活動を推進していきます。

※1 救急相談:

相談者の症状から、救急車で医療機関へ行くべきか、自分でいつ頃までに何科へ受診すべきかの緊急度を判断しアドバイスを行っています。

※2 医療機関案内:救急医療機関等からの情報に基づき、その時点で診察可能となっている病院をご案内しています。

《病院へ行く? 救急車を呼ぶ? 迷ったら…「#7119」》

知ろう 使おう #7119
(作者 古川 康平さん 府中市在勤)

「#7119」東京消防庁救急相談センターの業務概要

病院?
救急車? **迷ったら**

#7119

こちらからもつながります
03-3212-2323
042-521-2323

電話で相談 **#7119** 電話
東京消防庁救急相談センター

ネットでガイド **救急受診ガイド** 検索
東京都救急受診ガイド

※ご利用には通常の通信料がかかります

東京消防庁救急相談センター

迷ったら

おなかが痛いけど、どこの病院に行けばいいんだろう?

けがや急な発熱。病院に行くべきか、救急車を呼ぶべきか分からない...

ためらわず

突然の激しい頭痛や、急な息切れ、呼吸困難などの症状がみられたら

救急相談センターの主なサービス

- 救急に基づき緊急性の有無のアドバイス
- 受診の必要性に関するアドバイス
- 東京都の医療機関の案内

救急相談として受けられない内容

- 健康相談
- 医薬品情報に関すること
- セカンドオピニオンに関すること等

自動音声ガイダンス

医療機関をお探しの方 1
・近くの病院を知りたい

救急相談をご希望の方 2
・今すぐ病院へ行くべきか
・何科を受診すべきか 等

119番通報を!

24時間受付 (年中無休) 救急相談センター

救急相談 通信員
● 医療機関案内

救急相談 看護師
● 医療機関案内
● 救急相談

救急相談 医
● 相談業務における医学的判断プロセスの監督と最終決定

※救急相談は、日本救急医学会の監督により東京都医師会が構築したプロトコルに基づいて相談看護師が対応しています。また常駐している医師(救急相談医)が必須に応じて緊急を叫び、医学的立場に基づいた緊急の判断・救急相談対応を行っています。

救急車による搬送

緊急性がある

緊急性がない

救急相談以外の相談

医療機関案内

保健医療局等が開設する窓口を案内

東京都 救急受診ガイド

インターネットで病気やけがの緊急度がチェックできます。

東京都消防庁のホームページで症状ごとの質問に答えていくと病気やけがの緊急度や、受診する科目を確認できます。

判断結果によって緊急度が分かります。

- 赤** 救急車を要請
「今すぐ救急車で」病院に行った方がよい
- 橙** 今すぐに受診
「1時間以内」に病院に行った方がよい
- 黄** これから受診
「6~8時間以内」に病院に行った方がよい
- 緑** 明日には受診
「24時間以内」に病院に行った方がよい

東京都 救急受診ガイド 冊子版

全ての消防署に置いてありますので、どうぞご利用ください。該当する症状がない場合、該当が見つからない場合、救急相談センターへの電話相談へ使えます。

東京都 救急受診ガイド

携帯電話はこちら

QRコード

パソコンからは「救急受診ガイド 検索」
<https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp>

東京消防庁救急相談センターの受付状況(過去5年間)

期間(年中)	総受付数	医療機関案内	救急相談	救急要請	中等症以上
平成30年	398,877	196,012	201,943	30,003	10,106
	1,093/日	537/日	553/日	82/日	28/日
令和元年	417,013	184,425	231,686	31,412	11,276
	1,143/日	505/日	635/日	86/日	31/日
令和2年	362,454	140,261	221,379	34,392	12,418
	990/日	383/日	605/日	94/日	34/日
令和3年	362,392	124,228	236,757	38,755	13,605
	993/日	340/日	649/日	106/日	37/日
令和4年	439,507	175,822	262,036	42,674	14,137
	1,204/日	481/日	717/日	116/日	38/日

東京版救急受診ガイド

急な病気やけがをした際に、「今すぐ病院に行くべきか」「救急車を呼ぶべきか」迷った時に自ら緊急性の判断ができる「東京版救急受診ガイド」を東京消防庁ホームページ上で提供しており、パソコン、スマートフォン、携帯電話から利用することができます。

「東京版救急受診ガイド」は、59の症状から該当する症状について、表示された質問から当てはまるものを選択することで、病気やけがの緊急性の有無、受診の必要性、時期、科目のアドバイスを得られるサービスです。また、外国の方が症状の緊急度を自ら判断できるように「英語版・ウェブ版」を同内容で作成しています。

なお、インターネット環境を持たない都民の方へは冊子版も提供しています。冊子版は各消防署にありますので、ご利用ください。

東京版 救急受診ガイドの利用方法・サービス内容

スマートフォン・携帯電話やパソコンから東京消防庁ホームページにアクセスして『東京版救急受診ガイド』をご利用ください。

<3つのアドバイスを提供>

- 病気やけがの緊急性
- 受診する時期
- 受診する科目

※リンクから受診可能な病院検索もできます。



病気やけがの緊急性などは、ウェブ版も冊子版もチェックした質問によりアドバイスを確認できます。

- 赤** 救急車を要請(今すぐ119番へ)
- 橙** 今すぐに受診(1時間以内に病院へ)
- 黄** これから受診(6～8時間以内に病院へ)
- 緑** 明日には受診(24時間以内に病院へ)



緊急性がある場合は、ためらわず救急車(119番)をお呼びください。



救急車の適時・適切な利用のお願い

こんな時…どうしよう?



病院? 救急車? 迷ったら…

#7119

こちらからもつながります 03-3212-2323 042-521-2323

電話でも! に電話! #7119

電話で相談

東京消防庁救急相談センター

医師、看護師、救急隊経験者等の職員が対応しています。

24時間受付・年中無休

<主なサービス>

- 症状に基づく緊急性の有無のアドバイス
- 受診の必要性に関するアドバイス
- 医療機関案内

救急相談として受けられない内容 | 健康相談/医薬品に関すること | セカンドオピニオンに関すること

ネットでも! 簡単! サクサク

ネットでガイド

東京版救急受診ガイド

病气やけがをした際に自ら緊急性の判断ができます。

症状を選択しガイドに従う | 相談結果が表示される

冊子版は消防署にありますので、ご利用ください。

スマートフォン用

知ろう 使おう #7119 作者 古川 康平さん 原中市在勤

激しい頭痛や呼吸困難などの症状がみられたら、ためらわず119番を!

東京消防庁
東京都医師会 東京都保健医療局

東京消防 検索 <https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp>



リサイクル適性(A)
この印刷物は、資源物の分別
リサイクルが可能です。

12120-050705

応急手当の普及促進

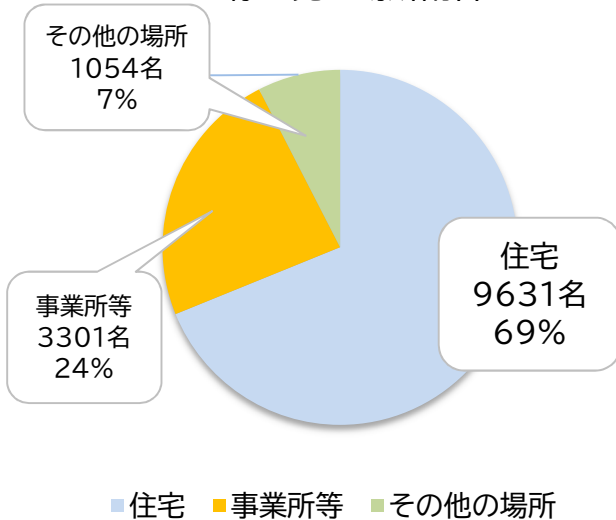
傷病者の救命効果を高めるためには、バイスタンダー(そばに居合わせた人)による応急手当がとて大切です。特に心停止の傷病者に対しては、早い発見と通報、心肺蘇生とAEDによる除細動(電気ショック)が重要になりますので、東京消防庁では都内在住、在勤、在学の方々に対して、応急手当講習を推進し、多くの皆様に受講していただいています。

令和4年中の「市民目撃のある心停止傷病者に対して行われた応急手当の状況」は、事業所(会社や不特定多数の方が集まる場所)での応急手当実施率が72.9%となり、多くの方による救護の手が差し伸べられています。しかしながら、全体で50.7%で応急手当が行われている中、発生割合の高い住宅での応急手当実施率は40.4%にとどまっているため、更なる応急手当の普及が必要です。

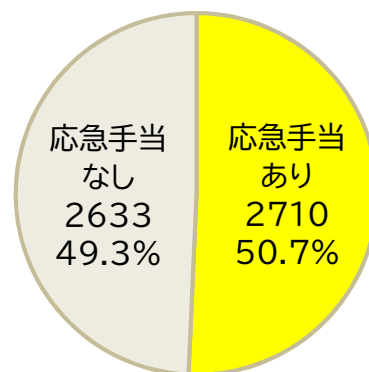
心停止傷病者発生場所別の応急手当実施状況等(令和4年中)

発生場所	搬送人員	心停止 市民目撃あり	応急手当あり (胸骨圧迫・人工呼吸・除細動)	
	a		b	c
住宅	9,631人	3,287人	1,329人	40.4%
事業所等	3,301人	1,521人	1,109人	72.9%
その他の場所	1,054人	535人	272人	50.8%
総計	13,986人	5,343人	2,710人	50.7%

心停止発生場所割合



バイスタンダーによる応急手当実施状況
(市民目撃あり)



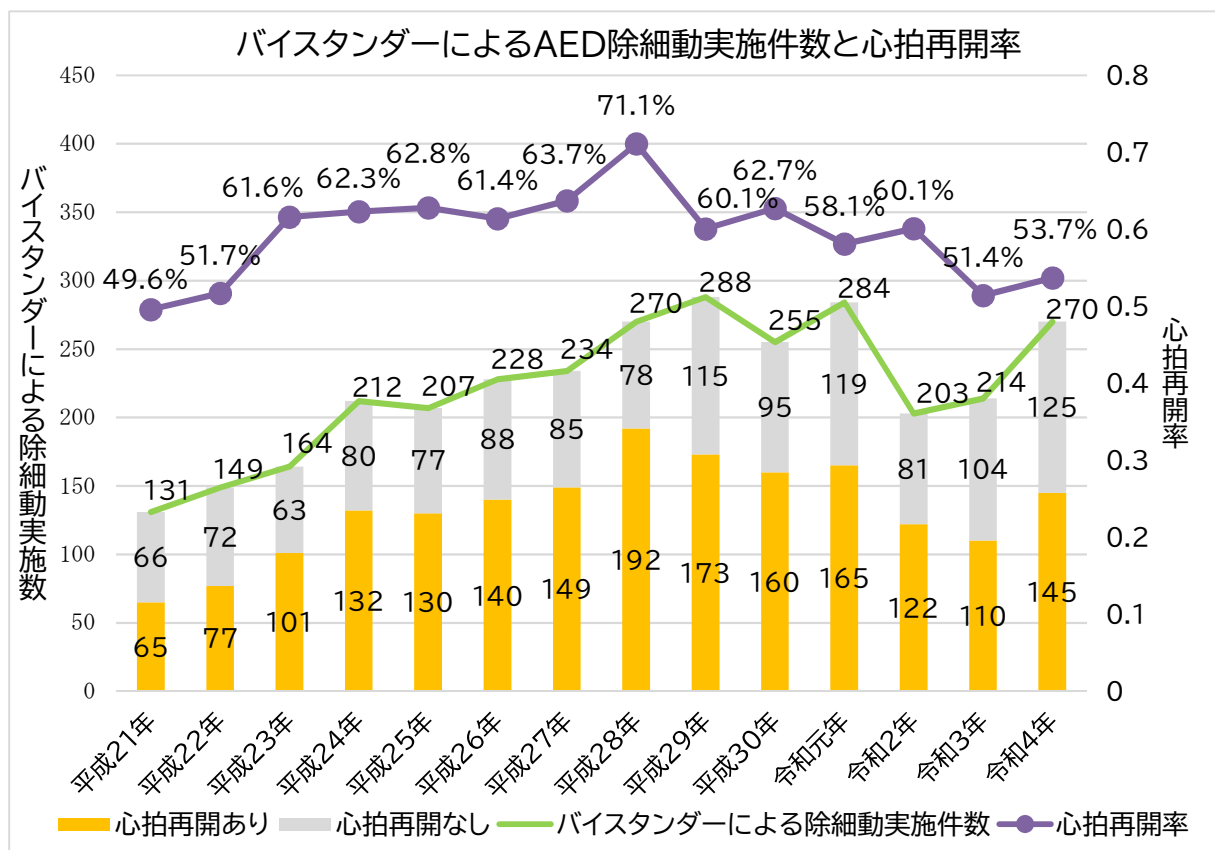
心停止の市民目撃があった傷病者に対する応急手当(胸骨圧迫・人工呼吸・AED)の実施状況のなかで、バイスタンダーによる応急手当が行われていたのは 2,710 人でした。このうち、救急隊が医療機関に傷病者を収容するまでに心拍が再開した傷病者は 522 人(19.3%)で、1か月生存者数の 300 人(11.1%)と同様、応急手当なしの場合と大きな差があります。(下表)

心停止の市民目撃のあった傷病者に対する応急手当実施状況等(令和4年中)
(病院収容前心拍再開・1か月生存状況)

市民目撃あり	搬送人員	心拍再開数	心拍再開率	1か月生存数	1か月生存率
応急手当あり	2,710 人	522 人	19.3%	300	11.1%
応急手当なし	2,633 人	288 人	10.9%	89 人	3.4%
合計	5,343 人	810 人	15.2%	389 人	7.3%

令和4年中にバイスタンダーがAEDを使用し、除細動(電気ショック)を実施した人数は 270 人で、そのうち 145 人(53.7%)が医療機関収容前に心拍の再開が認められました。(下図)

目撃のある傷病者に対するバイスタンダーによるAEDの救命効果(令和4年中)



東京消防庁では、業務委託している公益財団法人東京防災救急協会と連携し、各種応急手当講習を推進しています。

受講される都内在住、在勤、在学のみなさまの利便性を高めるため、東京消防庁ホームページに開設している電子学習室での事前学習による短縮救命講習をはじめ、さまざまな講習等を開催しています。

救命講習のお申込みは、公益財団法人東京防災救急協会のホームページや講習受付専用電話、またはお近くの消防署までお問合せください。



まず行動 救える命 あなたから

令和5年度東京消防庁 救急標語 作者：岡本 純一さん（府中市在勤）

救命講習のお申込みはホームページまたはお電話で！

東京防災救急協会

検索



<https://www.tokyo-bousai.or.jp>

（インターネットによる講習のお申込みは24時間対応しております）

短縮救命講習開催中

応急手当の知識が身に付く！
講習時間が短くなる！

事前にオンライン学習（電子学習室）を行うことで会場での講習時間が短縮される講習もあります。ぜひご利用ください。

詳細は東京消防庁 HP「短縮救命講習のご案内」をご覧ください。

講習受付専用電話 **03-5276-0995**

（平日午前9時～午後4時）



公益財団法人

東京防災救急協会

東京消防庁

東京消防

検索

<https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp>



リサイクル推奨

この印刷物は、環境にやさしくリサイクルできます。

資料5

応急手当のアドバイス（口頭指導）

救命効果の向上を図るため、通報者に対する応急手当のアドバイス（口頭指導）を行っています。

1 通話によるアドバイス

119番通報後、救急隊が到着するまでの間に、災害救急情報センターの管制員や現場に向かう救急隊員が、通話により傷病者の状況等を確認しますので、その場の状況に応じた応急手当のアドバイスを受けることができます。

2 映像によるアドバイス「Live119」

スマートフォンからの通報時は、通話によるアドバイスだけでなく、映像通報システム「Live119」を活用してアドバイスを行っています。

このシステムは、アプリを入れる必要はありません。

まず東京消防庁から通報者のスマートフォンにショートメールを送信します。次に、このメールを開き、メッセージに従ってアクセスしていくと、応急手当の動画を見ることができたり、スマホで撮影したその場の映像を東京消防庁と共有したりすることができます。

映像の共有機能を使えば、とっさの状況でも言葉を使わず簡単に、今の状況を的確に伝えることができます。また、映像をもとにすることで、その場の状況に応じた、より的確なアドバイスを受けることができます。

一緒に救急車が来るまでの時間に応急手当を行い、尊い命を救いましょう。



※Live119の接続に伴う通信費用は、通報者負担となります。

※映像撮影の際の、肖像権や安全には十分配慮してください。